

みのり
 正法榮ゆる日に遇ひて
 よろこび
 法悦いよいよ高まりぬ



みやびやかな雅楽の演奏と神楽舞い（県南奉詠大会にて）



平成17年1月31日
 第24号
 発行 梅花流師範・詠範の会
 会長 柴田弘一
 題字 初代会長・故加藤信三師
 梅花流師範・詠範の会事務局
 五城目町 待月院 嶋森憲雄
 電話 (0188-52-9566)

幸 せ 願 い

秋田県梅花流師範・詠範の会 会長 柴田弘一

みなさまそれぞれに、新たな思いをもって新年を迎えられたことと存じます。

昨年国内においては、たび重なる台風の襲来、集中豪雨、新潟中越地震等、災害が相次いで起こり、各地は甚大な被害に見舞われました。年末にはスマトラ島沖で発生した巨大地震による大津波で、犠牲者二十一人を超え、という大惨事で、未曾有の天変地異は止まるところを知らず、被害は筆舌に尽くしがたいものがあります。遭難された方々のご冥福をお祈りいたすとともに被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

今はただ、すべての地域の一日も早い復興を切に願うのみであります。

また、阪神淡路大震災から満十年。亡くなられた方々への追悼の念をいだけ乍ら、いつ起こるかもしれない災害に備え、防災対策などさまざまな方向からの取り組みが為されている中、先日地元神戸の方々が、十年を振り返って「大事ななこと！」と強調していたことばが強く耳底に残っています。それは「自分たちを支える大きな力となったのは、地域に連帯感があつて、お互いが支え合い、助け合つて来れたからではなかったらうか」と。

誰しも、いっどこでどの様な状況になるかわかりませんが、私たちの想像を絶する出来事が続発する昨今なればこそ、さきのことばの意を素直に聞き、受けとめることができるのではないのでしょうか。

新年の大般若ご祈祷の折、今年の願いごとで一番多かったのは「世界が平和でありますように」でした。その次は「風雨が順調で国土が安穏でありますように」、次が「家内安全と交通安全」でした。それは、あらそいのない穏やかで幸せなくらしを望む心を映し出しておりました。梅花をまなぶ私たち一人ひとりはお互いのくらしの中で、支え合い、励ましあつて「互いの幸せを願うところ」をはぐくんでみるこの一年にしませんか。それには「自分で出来ることはすんでする」「おもいやりの心。ことばで接する」「自分の利益だけを優先しないで相手の立場にも立ってみる」など心掛けてみては？

どうぞ「心願成就」「平穏無事」の年でありますように。 合掌

おらほの梅花講特別編！
山形県庄内・安部伸世師範
乗慶寺の梅花活動



去る一月の師範・詠範研修の講師は山形県庄内・余目町乗慶寺住職・安部伸世師範でした。先生のお寺の梅花講は、かつて梅花新聞『香里』（平成十三年一月発行）でも紹介されましたが、講員数は約四百名、通算講員番号は六百名以上。講習は年四回の一般講習、年十回の念仏曲講習、年十二回の初心者講習、毎月十五組の教階別講習を先生が担当され、また奥様が毎月十組の教階別講習を受け持って研修されているという、とても活発な取り組みをされていることで全国的に有名な講中です。今回は研修の合間に伺った、講活動の一端をお伝えします。

勧誘は仲間ごといで

新しい講員は、ほとんどの場合同じ町内のお仲間や友人からのお誘いがきっかけで入講しています。うちでは町内や地域ごとに講を分けておりまして、それぞれの班長さんは、地域の婦人会等で活躍しています。新規入講の場合は二〜五人くらいの友達同士で入るので、一人で始めたときよりも、途中で止めてしまうということが少ないようです。

念仏曲講習会

検定や大会参加を主とした講習とは別に「念仏曲講習会」というのがあります。うちの檀信徒地域である庄内の余目地区では、お葬式がある時、お通夜に隣近所のお母さん達と、喪家に集まって、ご詠歌をあげる習慣があるんです。そこでは、三宝御和讃・紫雲・追弔御和讃・無常御和讃・月影・聖号の六曲をお唱えします。これは梅花講員であるなしに関

たのしい新年会

わらず地域のご婦人達みなでやるならわしなものですから、近所づきあいでゆくうえでどうしても憶えなくちゃいけない。そこでお寺で月に一度、お通夜供養の曲を中心に講習をします。だいたい七十〜八十人くらい、それもうちの檀家だけでなくよその檀家さんも参加します。最近では追善供養御和讃と御詠歌も教えてほしいと希望があります。

いつもはそれぞれのグループに分れて講習していますが、年に一度、一月三十日の新年会にはみな一堂に会して新年会をします。午前九時頃からお寺に集まって、最初に祝祷のお勤め（三宝御和讃・般若心経・紫雲・慶祝御和讃）、講員の物故者供養（追善供養御和讃）、続いて検定合格者の教階補命書伝達式（今年は七十名くらいでした）、そして乗慶寺梅花講の登壇奉詠（地域別と階級別、全十二登壇、六〜十七名）をします。そしてお昼の会食、ゲームや踊りの披露などがあって午後三時頃には終わります。百円ショップでみんなに渡るように商品を用意して、

奉仕活動

ゲームの用意も得意な講員さんがしてくれます。これが一年で一番大きな行事になります。

お寺の大放若会やお盆などの前には清掃奉仕をしていただいています。どちらかに参加していただければいいということになっていますが、じつは乗慶寺の寺院検定（教導から中教導まで受けることができます）の際に、「行事に参加」「奉仕活動に参加」という項目を設けて、これを検定の点数に加えています。詠唱の点数と作法の点数で七〇点くらいまでゆくのですが、あとの三〇点は「清掃奉仕」とか「講習会に参加」の点数がこれに加わるようになっていきます。だからお唱えの出来が同じくらいでも、いろんな活動に参加してくださっている方の方が点数がよく出るんです。乗慶寺での検定だから出来ることだとは思いますが。

ほかにも若い世代へのアピールをねらった演奏会活動、検定や大会はもういいけどお寺に来たいという人達のために茶話会を主にした講習など、講習營のヒントをたくさん与えていただきました。

梅 花 流

講員一泊研修会のおもいで

おもいで

ウエルサンピア会場 十一月十五・十六日

秋田市 蒼龍寺寺族

佐藤佳代子

去る十一月十五、十六日、岩城町厚生年金センター・ウエルサンピアの会場で一泊講習会に始めて参加させていただきました。

経験豊かなわが講員さんたち（十名）は余裕を持って会場入り。御詠歌を始めまだ一年も満たない私は何事も経験と思い、このたび研修会の仲間入りをさせていただくことにしました。

会場の外は、どんよりとして冬景色を思わせるような寒々しさそのものでしたが、会場の中は熱気と緊張

に包まれていました。

当日は九時半に受付を済ませ、開講式では三宝御和讃にはじまり、おごそかなうちに全体講習に移り、クラス別の分科講習が引き続き行われました。初めの分科会で私は、基本作法（法具の解き方、組み方）の手ほどきを受け、改めてお作法の大切さを実感いたしました。

次の分科会では、聖号、三宝御和讃を柴田先生に、浄心、正法御和讃は佐藤先生に教えていただきました。両先生のわかりやすく丁寧な御指導のもとに緊張しながらも楽しく受講することができました。

その後、講師の先生方、講員さん合わせて総勢八〇余名の夕食会は、持ち前ののどを聞かせての歌あり、

笑いありでみんなの気持ちがあひつになったようで、ホッとするひとときでありました。

二日目、朝課は般若心経をお唱えしました。全体会では佐藤先生より六地藏さま、四摂法（布施・愛語・利行・同事）のことをこまやかに解説をしていただき、皆さんもなるほどと納得された講習会でした。

午後二時の閉講式では、丹生先生から講習会が無事に終えられたことの御挨拶と総括をいただき、二〇〇五年には秋田県梅花講が四十周年を控えた記念の年になるとのお話がありました。講員一同、心を引き締めあらためて梅花講の大きさを目の当たりにした一日でした。

柴田先生はじめ、講師の先生方のお忙しい時間を割いていただき、心から感謝申し上げます。ほんとうにお疲れ様でした。今回の一泊研修会では梅花のご指導はもちろんですが、実りある時間を過ごさせていただきました。これからも梅花に精進することを心に誓って帰途につきました。

今後とも御指導のほどよろしくお願ひいたします。

合掌



〇一八・八七三・七六六

二月 五日 法灯（高祖）

一 二日 涅槃御和讃

一 七日 不滅

二 四日 正行御和讃

三月 五日 正法御和讃

九 九日 誓願御和讃

一 六日 彼岸御和讃

二 三日 香華

三 〇日 四摂法御和讃

四月 二日 歡喜二

九 九日 花祭御和讃

一 六日 慶祝御和讃

二 三日 伝心

三 〇日 学道御和讃

五月 七日 永平二祖御国師和讃

一 四日 永光（永平二祖）

二 一日 花供養御和讃

二 八日 供華

六月 四日 開山忌御和讃

一 一日 報謝御和讃

一 八日 地藏菩薩御和讃

二 五日 慈念

※ご意見、ご感想をお寄せ下さい。

秋田市金足岩瀬字前山三

東泉寺（〇一八八七三二六七五）

010-0111

梅花のふるさと

一 詠讚歌の生まれた風景へその三

瑩山さま誓願の里

とうこくさんようこうじ
洞谷山永光寺

太祖常清大師瑩山禪師御詠歌

ことしより八幡の神のあらわれて
 我がたつ杉の守となるかな
 われ棲むと那坂の山も踏み平らし
 苔のしたきて人ぞ訪い来る

瑩山禪師御撰述「洞谷記」

◇瑩山禪師と能登の国◇

曹洞宗の開祖・道元禪師より数えて、二代目が懐奘禪師、三代目が義价禪師、四代目が永光寺(石川県羽咋市酒井)と総持寺(同県鳳至郡門前町)のご開山・瑩山禪師です。

十四世紀、瑩山禪師のご活躍された頃の能登半島は、越の国のさらに北方にあるところ。都に住む人々にとっては異境の地でありました。しかし瑩山禪師は、ご自分がこの北の地にとっても縁の深

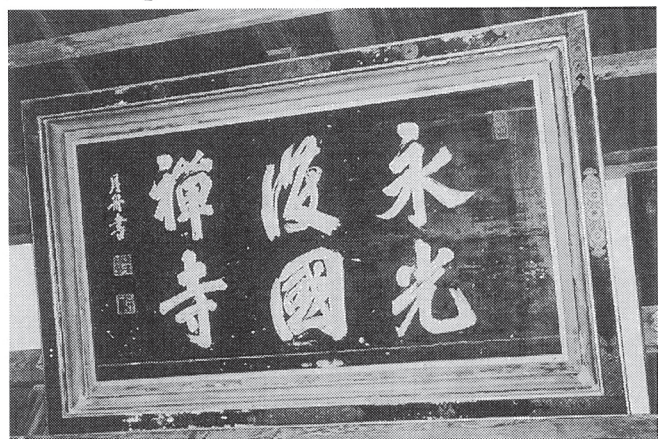
い生まれだということをお述べになつています。

私は昔、お釈迦様の過去世の一つであるピバシの北、雪山という所に住んでいた。そのクバラ樹の神だったのである。その姿は頭はイヌ、からだはトビ、腹尾はヘビの形をした四足の獣だった。ある時たちまちに悟りの位に到って、十六羅漢のひとりスヒンダ尊者とともに北九州の雪山に住むようになったのである。それゆえこの地に生まれた。なぜなら「北」の国に縁が深いのだから。だから白山の氏子でもある。これは『洞谷記』という書に瑩山禪師ご自身が記された、不思議な前生譚として伝えられるものです。「洞谷」とは永光寺の山号、洞谷山にちなむもので、瑩山禪師がご自身の伝記や永光寺開山のてんまつを記したものが『洞谷記』なのです。

◇永光寺のはじまり◇

瑩山禪師は八歳の時に髪を落とし、その頃永平寺の住職をされていた義价禪師の門下に入られました。その後、道元禪師のお弟子であった数人の

【永光護国禪寺】



永光寺本堂の八尺間に掛かる寺号額。揮毫は江戸時代曹洞宗屈指の名僧、月舟宗胡(げっしゅうそうこ)禪師。当時、全国の禪僧が月舟禪師の会下で修行することを求めて永光寺の門を叩いたといわれる。

禪僧達のもとで修行を重ね、三十二歳の時、金沢の大乗寺のご開山とされていた義价禪師の法を嗣がれました。その三年後には大乗寺の二世住職となられ、十九年後の元応二年(一三二〇)、五十三歳の時に能登永光寺を開かれたのです。瑩山禪師の開かれる以前、能登国の酒井というところに小さな観音堂がありました。その地をある篤信の女性信者が瑩山禪師に寄進したことが永光寺の始まりでした。以来、十年余の歳月をかけて、仮の庫裏、仏閣、僧堂、円通院、最勝殿、五老峰、伝燈院、法堂等々の伽藍が順次に建立されました。ですからどの時点で永光寺の開山とすかはいくつかわの見解があるようですが、今は瑩山

禅師ご自身の記録にしたがっておきます。
 さて『洞谷記』に記された永光寺の記録は、瑩山禅師の前身譚と同じように、瑩山禅師とさまざまな神仏との交流に彩られています。

◇永光寺を守る神々◇

『洞谷記』に登場する神仏は、瑩山禅師の夢の

中に姿を現し、多くのお告げをしています。
 永光寺の寺領を寄進されたことも、もとはと言えは瑩山禅師が夢中に感得され、その夢が現実となったのでした。さらには十六羅漢の第八バジャラホタラ尊者、無名の老僧、樹神等々、さまざまな姿で夢中に現われ、そのつど洞谷山の伽藍を整えたり、寺域の守護を約束したりしてくれるのでした。

【永光寺法堂正面】



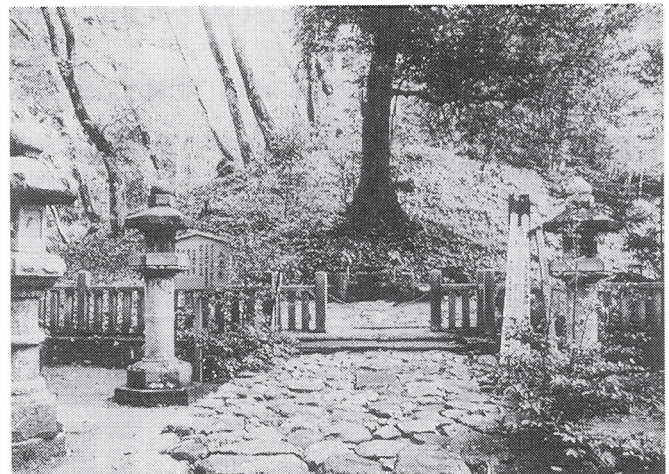
瑩山禅師は永光寺のたたくまいをこよなく愛された。ことに一山の樹木にはたいへん深い愛情を寄せられ、その思いを文にとどめられている。

『洞谷記』の中から梅花流でいただいている二首のご詠歌も、まさにこうした瑩山禅師が夢中に体験されたことがもとになって詠じられたものでした。

「ことしより」の歌は、八幡神が永光寺の建立を歓迎し、将来にわたって守護神となることを誓約してくれたことを歌ったものでもあります。また「われ棲む」との歌は、山深い洞谷の里に、瑩山禅師の教えを求めて、各地よりたくさんの人々が訪ね来ることを歌ったものであります。

どちらも永光寺の興隆してゆくさまを予言する内容となっていますが、永光寺開創当初の瑩山禅師をささえる一門は、こうした夢中の予言に導かれるように日夜のご修行に励み、あまたの神仏の加護を受けて、あたかも正夢のように

【五老峰】



如浄・道元・懐奘・義价・瑩山と次第する五代禅師の遺物を納めた場所。法灯の正脈を担う瑩山禅師の強い決意を伝える。曹洞宗の聖地として現在も尊崇されている。

大いなる発展を遂げてゆくのでした。

永光寺開創後のある日、瑩山禅師は坐禅中に靈夢を感じられました。それは古い観音堂をあずかる老僧が、自分を迎えて、そのお堂を禅宗のお寺に改めようとしているというものでした。はたしてその夢もまた現実となったのです。同じ頃、奥能登の鳳至郡にある諸岳観音堂の住職、定賢律師が、ある日、高德の禅僧にお堂をお譲りする夢を見ていたのです。このお二人の夢の不思議な一致が機縁となって、観音堂は諸岳山総持寺と名を改め、瑩山禅師をご開山にお迎えして曹洞宗のお寺となりました。それは北国能登を出発点とする、新たな曹洞宗の歴史の始まりでありました。

の歌』新曲完成

13
そ 学 と
な も
え び に
ま お 励
つ さ
ら め ま
ん し
み み や
ほ お わ
と し ら
け え ぎ
に を て

14 15 16

17
こ 喜 梅
う げ 花
ふ び の
く れ 道
い に
い を
え 鉦 と
い わ
し ゆ に
つ た い
ど く そ
い し し
ぬ て む

18 19 20

このほど、『秋田県梅花講の歌』の新曲ができました。かつて前師範会会長・亀谷健樹老師によって作詞されていたものに、著名作曲家・佐藤公一郎氏の作曲をいただいたものです。どうぞ折にふれてご愛唱願います



作詞者

亀谷健樹老師

現在、OTOの会の他、作曲家協議会会員、桐朋学園大学助教授。「主要作品」弦楽四重奏「西風の見たもの」、Koo「空」ソプラノとチェロのために、十三弦のための「紫陽花」

桐朋学園大学作曲理論学卒業。学生時代よりアマチュア合唱団を主宰し、十八年間常任指揮者として自作品も発表。幼児から大人まで誰もが弾くピアノのためのオーケストラ伴奏を編曲し、身体で感じることの出来る音楽というメッセージのもと、全国公演を行なう。二〇〇〇年より二〇〇二年まで桐朋学園海外研修制度でカナダに渡り、音楽教育の研究、および自作品の発表、各種演奏会を行なう。石桁眞禮生氏、末吉保雄氏に師事。

作曲者

佐藤公一郎先生

『秋田県梅花講』

Allegretto

mf

mp

2 3

5 6 7 8

9 10 11 12

や ま は み な も と あ さ や け の
大 地 古 ゆ か た わ ら に ぬ 稲 日 本 穂 海 は
雨 入 り を 風 日 つ に く を 波 す 経 ぎ て は わ い 慈 く ち の 悲 み 満 い ず つ ろ



この歌詞は、確か特派梅花布教師として巡回した折り、どこかで梅花師範会の歌を見せてもらい、秋田県でも是非作りたいものと思ったのがきっかけであった。それで本県では『梅花講の歌』として大会とか研修会の時、愛唱できる秋田の香り豊かな歌詞を志したのである。

さて、その解説というか、作詞の意図をいささか述べてみたい。一番は全国的に抜群の〈山紫水明〉を詩う。鳥海・森吉など奥羽の山系に広がる秋田杉の樹海。その源に湧く清らかな水。香華と共にみ佛にお供えして会場を荘厳する、梅花の集いを賛嘆した。

二番目は秋田小町の本場。肥沃の地に秋の稲穂はいのち満々。雨風あればこそその味の良さ。されば鈴鉦と詠唱の習熟にかける精進も、み佛の教えを学ばんとする信あればこそである。

三番は日本海の水平線に没する夕日の絶景。慈悲の色そのもの。その光をあびて梅花道にいそしむ同行同修の和らぎを表現した。拙作だが多くの機会に歌って下されば幸甚である。

合川町 太平寺住職 (前師範会長)

ちよつとぶじよぼう

梅花

梅花にふれて

つれづれ

秋田市下浜 珠林寺講員 遠藤洋子



いよいよ奉詠登壇、控え所で登壇の心得を確認

梅花講にふれてから一年半もたちました。当初の私からは思いもよらないことです。

家の仏壇の引き出しの中に古い梅花の教典がありました。私には無縁のものとも思いませんでしたが、その話が、そんな時、珠林寺の方から梅花の話があり、仏壇の教本を、アー、これだと思ひ出しそれをもって参加しました。

まったく未知の世界でした。独特の旋謡、そして雰囲気。しかし回を

重ねる度にその魅力に惹かれてゆく自分がいました。

先日、西目町での奉詠大会に参加させてもらったことは大きな経験であり、無上の喜びでした。教典だけが頼りの未熟な私たちでしたが、一人ひとりが手をつないで、今まで教わったことを一生懸命やればなんとかなる、との思いだけでした。衣装も道具もそろえず、ふだん着での舞台に、講師と一緒に、地に足が着かない状態だけを頼りに、

態でステージに上がりました。

まわりも何も見えず、ライトがともまぶしく、でも両手を合わせて教典を手にした時、スーと気持ち落ち着き、大きな声で奉詠ができました。

終わってからの仲間一人ひとりのホッとした表情がとても美しく、そこには安堵感と清涼感というかすがすがしい気持ちを覚え、まわりへ感謝の念でいっぱいでした。

立派に奉詠なさっておられるたくさんさんの講中の皆さんはすばらしいと思ひました。特に独自のアイデアでの二部合唱は、これまたすばらしく奥の深さを感じました。

最後の講評では、身に余る評価と賞状をいただきました。出来栄よりもこの後もつと習得せよという励ましの言葉と受け止め、新たな気持ちで進みたいと思ひます。

まったくの未知の状態から今日までお導きいただき、喜びを与えてくださった講師様と、その場を与えてくださった珠林寺様、そうした方々に心から御礼を申し上げます。なお一層の習得に励み、その恩に報いたいと思ひます。これもまた、梅花の心のひとつだと思ひます。



禅センター！梅花講習日程

宗務所禅センター主催・平成十七年三月までの梅花講習日程をお知らせします。

【宗侶・寺族研修会】

二月十四日(十時半～十五時半)

講師 山中律雄師範

課題 紫雲・涅槃等

【檀信徒講習会】

二月九日(十時半～十五時)

講師 伊藤道人師範 佐藤晃心師範

課題 涅槃御和讃・不滅

三月十一日(十時半～十五時)

講師 浅田高明師範 伊藤道人師範

課題 高嶺・真清水

「はじめてだけどんなものかよつと参加してみたい」「いろんな先生の講習を受けてみたい」「うちのお寺では梅花講がないので受講してみたい」等々いろんなきっかけの方が参加されています。どなたでもお気軽にご参加下さい。

昼食は各自御持参下さい。

受講料は無料です。申込は不要です。

当日秋田県宗務所禅センターまでお出下さい。

【宗務所でんわ】〇一八八六八八六八七